

園 だ よ り

令和6年11月号 認定こども園 長者幼稚園

Tel 45-1941 fax 45-1943

ホームページ<http://choja-youchien.com/>

2024/10/28発行



数感覚を磨く

～ 数ともものとの1対1対応を通して ～



園長 田村 元

幼児が数を数えることができるようになるのは3歳ごろからだといわれています。個人差はありますが、3歳ごろには1から3個までの数がわかるようになり、1から3個までのものを声に出して数えることができるようになります。4歳では10くらいまでの数字が理解できるようになり、5歳ごろ頃は2桁の数字まで理解できるようになります。私たち現代人は難なく数を数えています。大昔は3より大きい数を表す言葉をもたなかったため、「いち、に、さん、たくさん。」と数えていたのだそうです。それでも、ひつじ飼いは毎日ひつじを放牧させ、夕方には全部のひつじが戻ったことを確認することができていました。では、どのようにしてひつじの数を掌握していたのでしょうか。洞窟の入り口で、ひつじが1頭出てくるたびに小石を1個袋に入れ、ひつじ飼いはその袋をもち歩きます。夕方にひつじが1頭帰るたびに、その石を1個袋から出していきます。最後のひつじが帰ったとき、最後の小石が袋から出されれば、迷子のひつじがないということがわかります。石とひつじを「1対1対応」させ、合致するかどうかを調べていたのだそうです。

現代の私たちは、石の代わりに「数」を使ってものを数えます。「1, 2, 3, 4, 5…」というふうには。数を数えるとは、数ともものを1対1で対応をさせる操作を頭の中で行っていることなのです。



初めて算数を習う小学校1年生の学習では、カエルが蓮の葉1枚にちょこんと乗っている姿を見て、残りのカエルと蓮の葉に対応させ（1対1の対応）、数を数えたり数を比べたりできることを学んでいきます。

園でも、生活や遊びの中に数の感覚を磨く活動を取り入れています。朝の会で、今日は○月○日と理解したり、お誕生会では何人の子が誕生日を迎えるかみんなの数えたりすることで数の感覚を養っています。自由時間のままごと遊びや縁日ごっこなどの行事は体験的に数について学ぶことができます。年長組の書き方ではものと数字をえんぴつでつなぎ合わせる経験も積んでいます。意外なところですが、こども達が大好きなぬり絵も、枠の中に色を塗ることも立派な1対1能力を磨く事につながっているはず。ご家庭でも、楽しく無理のない程度に、数の感覚を磨く体験に取り組んでみてはいかがでしょうか。



長者幼稚園 創立記念日

11月24日は長者幼稚園の創立記念日です。園舎が完成してすぐに、青森県知事から幼稚園設立の認可を受けたこの日を長者幼稚園の創立記念日としました。（昭和51年）長者幼稚園の45年間の歴史の中で育まれてきた伝統が、脈々と今の先生方や子ども達に受け継がれており、子ども達のよさが保護者の皆様や地域の方々に広がり続けています。